



バックナンバー

News Letter

第32号



■ 巻頭言

熊本学園大学外国語学部准教授
東アジア学科長 小笠原 淳

2022年現在、中国のGDPは日本の4倍に迫ろうとしている。1人当たりGDPも2025年頃までには高所得国入りする見通しだ(ジェトロ「ビジネス短信」2022.3.16参照)。中国の経済規模が2035年には米国に肉薄し、米中が拮抗する時代が長く続くとするシナリオも示されている(福本智之『中国減速の深層——「共同富裕」時代のリスクとチャンス』)。

台湾の半導体メーカーTSMCの熊本進出も、米中二項対立の構図と無関係ではないだろう。中国依存やチャイナリスクを避けて、日本が外国のサプライチェーンに組

□■□学科の最新ニュース! □■□
東アジア学科の授業風景を学科ホームページで配信しています。アクセスには上のQRコードをご利用ください。

み込まれていく傾向が今後加速していくのかもしれない。

一方で、中国企業は韓国市場の確保などを目的として、先端分野での韓国進出を進めている(ジェトロ「地域・分析レポート」2022.5.10)。いま世界は中国の巨大化にともない大きな転換点を迎えているようだ。

このような新しい情勢に後押しされて、中国語と韓国語の分野でも新たなニーズが生まれてくるのではないかと。海外企業の進出にともない移住してくる人々に提供される様々なサービス。行政・医療・教育・観光・日常生活の多様な分野において、中国語や韓国語の通訳・翻訳の需要の高まりが予想される。私たち東アジア学科としても、来るべき新時代に対応する人材の育成が急務だと考えている。

□ 研究紹介——組み合わせの文法

韓国語は日本語と同じく、文法要素をいくつもつなげることができます。日本語で例を出すと「食べーさせ(使役)ーられ(受身)ーたく(願望)ーなか(否定)ーった(過去)」のように、使役や受身といった意味を表す要素が連なります。わたしが研究対象としている韓国語の連結語尾(日本語の接続助詞「～から」「～ので」などに相当)では、文法要素がいくつも連なることでやっかいなことが起こってきます。ここでは日本語を例に取って説明してみたいと思います。

例えば「ご飯を食べて、学校に行きます」の「～て」の後には、さらに「～は」や「～も」などが続くことができます。「～て」に「～は」を付けた「～ては」の意味は、単純に二つの意味を足し合わせただけでは出てきません。「～ては」はだいたい次のような意味を表します。

- (1) 反復(雨が降ってはやむを繰り返す)
- (2) 習慣(いい本を見つけては友達に紹介している)
- (3) 条件(一生懸命勉強しなくては卒業できない)
- (4) 不可避(そんなに頼まれては断れなかった)

東アジア学科講師 黒島 規史(韓国語文法)

韓国語も「～て」と「～は」にあたるものがあるのですが、韓国語の場合は「～て」が四つほどあり、少し複雑です。韓国語の「～ては」は上の(2)、(3)の意味は表せますが、(1)は表せません。ただし、(3)の「条件」はその用法によってさらに三つに細分化できるのですが、韓国語の「～ては」は三つ全部表せたり、そのうち二つしか表せなかったりします。(4)は限定的ではあるものの表せます。韓国語の「～ては」はまた日本語とは違う意味も表せて、逆接(～のに)や連続する出来事(～すると…)のような意味があります。

「～ては」は「～て」と「～は」の意味を足し合わせればいいだけでなく、その意味も日本語と韓国語でちよつとずつ違っています。韓国語学習の文脈においては、韓国語の「～て」と「～は」の意味用法をマスターしただけで満足してしまう人も多いのですが、組み合わせによって新たに出てくる意味用法にも気を配る必要があります。

ここではほんの一例を挙げましたが、他にも「～て+

■ □入試情報 □ ■ 総合型選抜： 出願期間 10月3日(月)～12日(水) / 試験日：10月23日(日)
学校推薦型選抜：出願期間 11月1日(火)～10日(木) / 試験日：11月27日(日)

も」「～て+から」や「～ながら+も」「～けど+も」など、組み合わせはたくさんあり、韓国語も日本語と同じかそれ以上の組み合わせが存在します。さらに、場合によっては「～た+けど+も」のように、過去の「～た」との組み合わせが発生することもあります。スターバックスで

いろいろなカスタマイズを試して、自分好みの一杯を注文できるのは楽しいですが、文法要素のカスタマイズはいかがでしょうか？ わたしはウキウキしながらいろいろな組み合わせを試してみて、韓国語の研究を進めています。

■ 「出張日記」

私のパスポートには、2007年7月31日付の出国印と、それに重ねるように「VOID 出国中止のため出国証印は撤回する」というスタンプと同日付の入国審査官印が押されたページがある。その日は海外研修の学生を引率して北京に向け福岡空港の出入国管理カウンターを通過したものの飛行機が飛ばなかったため出国できず、翌日の便を待って福岡のホテルで一泊することになったのである。航空会社からは「機材が到着しないため」とのアナウンスがあり、飛行機を飛ばす装置か何かが到着していないのかと思ったが、要は飛行機本体が来ていないということなのであった。

東アジア学科准教授 野田 耕司（中国語学）

翌日、高級ホテルでの朝食を済ませ、無事出国し経由地の上海に着いたものの、ここでも大雨のため北京から来るはずの「機材」が深夜近くになっても到着せず上海で一泊することとなった。旅行社と携帯で連絡を取り合いながらも、三十数名の学生を一人で引率している身としては気が気でなかった。8月2日ようやく北京入りできたが、学生も私も心身ともに疲れ果てていた。後日、一足先に帰国する私に学生から渡された寄せ書きにはお礼や慰労の言葉が埋め尽くされており、それまでの労苦が一遍に吹き飛んだことを今でも思い出す。

□ 東アジアへのまなざし

これまで勉強一筋だった韓国も、ディープラーニングやDX、第4次産業革命など、耳慣れない言葉が飛び交う中、その教育政策に迷いが感じられる。一斉授業から多様性へと舵を切った中学校では、2016年に「自由学期制」という制度が導入され、半年間学校の正規課程から離れ、自由に将来のキャリアや適性を探す時間を持つようになった。また、2025年からは「高校単位制」という、全く新しい取組みが始まる。

他の学校の授業や専門家、地域人材による公民館などでの講座の受講でも単位を取得できるなど、学ぶ内容や場所、講師に関する選択肢を増やす取組みとなっている。

東アジア学科特任准教授 金 美連（比較教育学）

一方、大学入試では、昨今「スカイキャッスル」という韓国の歪な受験競争を題材としたドラマが社会現象となるなど、公平性の確保が課題となっており、成績による客観的な評価を重視する動きがある。多様性の追求と評価の客観性という、一見矛盾する政策の中で、生徒や先生方がどのようにバランスを取ろうとしているのか、厳しい舵取りを強いられているだろうことは想像に難くない。極端な合理化へと収束する社会に安易に迎合することなく、真の幸福につながる公教育の多様化を期待する。

■ 新書紹介 胡玉華著『中国語教育とコミュニケーション能力の育成——「わかる」中国語から「できる」中国語へ』当方書店（2009）

著者の胡玉華氏はかつて中国華東師範大学教育学部で教鞭をとり、来日後は東北大学で教育心理学博士号を取得、現在は北九州市立大学で中国語を教授している。胡氏は、教育心理学を用いた実験やアンケート調査を活かした中国語教育を実践してきた。

日本の中国語教育は「わかる」中国語の段階にとどまっていると感じ、どのようにしたら日本の学生を「できる」中国語に導けるかという問題に注力してい

る。また、アメリカ、ヨーロッパの中国語教育の改革の動きも紹介しており、西側諸国が中国語教育を重視している様子の一端がうかがえる。私も一人の中国語教育者として、胡氏の指摘を虚心坦懐に受け止め、東アジア学科の学生たちの中国語を「できる」ようにする実践的な教育を行っていきたい。

東アジア学科教授 李 珊（中国語学）

発行者 熊本学園大学外国語学部東アジア学科
編集人 小笠原 淳（東アジア学科長）
〒860 - 8680 熊本市中央区大江 2-5-1
Tel 096-364-5161（代表）

